

国際連盟は(リットン調査団)を派遣し、事件の背景を調べさせました。



日本の権益は認めるものの、日本の軍事行動は不法であり、「満洲国」は承認できないとし、占領地からの日本軍の引き上げなどを勧告した。(42対1で可決)



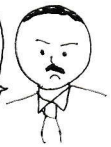
納得できない日本は、この勧告を拒否し、国際連盟を脱退しました。(続いてドイツ・イタリアも脱退)

さらに翌年には(ワシントン)会議で発せられた(軍縮)条約の廃棄を通告しました。

この時の日本全権代表は  
(松岡 洋右)でした。  
ようすけ

この時点で日本は  
後戻りできない道へ  
進んだともいえる。

退場  
するわ



(十字架)演説を行うと、会場中拍手がいっせいにわき起こりました。

帰国した松岡洋右は国民の大歓声を受け、新聞などのマスコミからも支持されました。

満洲事変以降、中国はますます排日方針を強化し、以後日本は中国大陸での泥沼の戦いに突入していくこととなります。